

小学生を対象にした地域教材の開発及び活用に関する実践的研究

— 「千代田区ふるさとカルタ」の構成・発信 —

本澤 淳子

1. はじめに

千代田区は新旧住民の二極化が著しく、地元ならではの魅力を知り伝えていく場や機会が強く求められている。こうした状況を受けて、家政学部児童学科 本澤ゼミでは、2016年度から「小学生を対象にした千代田区の地域素材の教材化に関する実践的研究」を推進してきた。ゼミ生を主体に、千代田区の歴史・自然・文化等についての取材・調査を通して「千代田区子ども検定」を構成し、冊子やWeb



図1 千代田区ふるさと検定Web版トップページ

による発信を行ってきている。なお、本検定が小学生に限らず幅広い世代の区民に親しまれてきたことから、2019年度以降「千代田区ふるさと検定」と名称を変更しており、本稿においてもすべて「千代田区ふるさと検定」で統一することとする。

郷土検定は、多くの自治体や団体から発信されているが、しばらくすると枯渇していく状況が目立つ。これは発信後の利活用について積極的な計画運営がなされていない場合に多く見られ、郷土意識の醸成を図る上で、検定発信後も何らかの継続的な活動が不可欠であると考えられる。

こうした考えに基づき、郷土検定発信後の発展的な活動として、「千代田区ふるさと検定」という形で蓄積してきた情報を新たに郷土カルタ（「千代田区ふるさとカルタ」）として構成・発信することを計画した。Web上で取り組むことのできる検定と昔ながらのカルタでは楽しみ方こそ異なるが、目的や対象に応じてその方法を選択することができるようになれば、地域の魅力にふれ親しむ機会がさらに広がるであろう。地域・大学間の交流推進を図る上でも、コミュニケーションツールとして検定やカルタを活用することが期待できる。

「郷土カルタ」に着目したのは以下の理由による。すなわち、郷土カルタは、戦後まもなく作られた「上毛かるた」をはじめとして、その種類は2000種に及ぶとも言われている。特に、2000年を挟んだ市町村合併期以降、合併を機に郷土カルタを作って新たな住民意識やまとまりを作っているところの動きが高まり、多くの自治体や団体等で郷土カルタが制作されるようになっている。¹⁾

これらのカルタは比較的容易に入手することができるが、その制作過程についてはほとんど公開されておらず、この過程が研究対象として着目されることも極めて少ない。ここでは、地域の子ど

共同研究「小学生を対象にした地域教材の開発及び活用に関する実践的研究—「千代田区ふるさとカルタ」の構成・発信—」

もたちや住民の郷土意識の醸成を目的とする郷土カルタの制作過程として、特に読み札の構成に焦点を当て、その内容・表現を選定する視点について考察していくこととする。

2. 研究計画（本研究の位相）

本研究は、「小学生（及び区民）を対象にした千代田区地域素材の教材化に関する実践的研究」5年計画の4年次にあたる。

○1年次（2016年度）

千代田区についての情報収集を中心とし、「千代田区子ども検定 お試し版」（10問からなる小冊子）を作成。千代田区立小学校第3～6学年児童全員に配付し、解答の状況を把握する。また、児童、小学校関係者等に検定問題の難易度、親しみやすさ等についてアンケート調査を実施する。

○2年次（2017年度）

アンケート結果をふまえて検定問題を改善するとともに、検定問題数をさらに増やし、「千代田区子ども検定 千代田区博士チャレンジ版」を作成。千代田区立お茶の水小学校で本検定を実施し、個々の解答の状況、検定問題に対する興味・関心等を把握する。

○3年次（2018年度）

作成してきた検定問題をWebで公開し、家庭や地域でいつでも楽しむことのできる検定として、小学生に限らず幅広い世代を対象として提供する。Web版は、ジャンル別、小学校学区別にコースを設定し、音声読み上げ、結果判定付き等の機能を持たせる。

○4年次（2019年度）【本研究】

検定問題として蓄積してきた情報を新たに「千代田区ふるさとカルタ」として構成・発信する。カルタをコミュニケーションツールとして活用し、小学生をはじめとする地域住民との交流活動の企画運営を行う。

○5年次（2020年度予定）

検定問題として蓄積してきた情報を、イラストマップアプリを利用したGPSクイズラリーとして再構成する。「体験型の検定」として、検定問題で取り上げた場所に足を運び、街歩きを楽しむことのできる機会を提供する。

3. 「千代田区ふるさとカルタ」制作の実際

(1) カルタの制作過程

2018年度まで約3年をかけて作成してきた「千代田区ふるさと検定」では、それぞれの問題の最後に「ここで一句」を設けている。これは、検定の内容をより印象づけることを意図して五七五に表現したものである。例えば、千代田区の人口を問う問題では、「6万人」という正解を示すだけでなく、昼夜の人口差の大きさを取り上げ、「ここで一句」として「6万の人口 昼は85万」と表している。

このように、「ここで一句」は「千代田区ふるさと検定」の特色の一つであるが、これを「千代

田区ふるさとカルタ」読み札の素案として活用することとした。検定問題として既に72問が完成していたため、これらの検定問題に関する72句をカルタ読み札の候補とした。(表1)

これら72句をもとに、以下の観点から内容を精選し、五十音を網羅した読み札とそれに照応する絵札を構成することとした。観点はほぼ時系列で示しているが、実際には、内容(①・②)と表現(③・④)についてはそれぞれを按配しながら並行して進めるのが現実的である。

- ① カルタの内容には、千代田区の歴史・文化・自然・生活等から特徴的な事柄を幅広く取り上げる。点数は、五十音に対応して44点に精選する。
- ② ①の内容を千代田区の小学校学区で分けた場合、どの学区の児童もカルタに親しめるよう、取り上げる内容に学区間の極端な片寄りがないう配慮する。
- ③ 読み札の一字目に、五十音の重複、欠落が起こらないよう調整する。
- ④ 小学生を中心に幅広い世代を対象としているため、読み札は正しくかつ耳馴染みのよい表現となるようにする。
- ⑤ 読み札が確定した段階で、絵札の制作を進める。絵札は、外部のボランティアに依頼しているが、読み札の内容に適した絵札となるよう、イメージの共有が必須となる。

(2) カルタ制作の実際

① 読み札の表現を検討する

検定問題「ここで一句」の表現を変更することなく読み札に採用できたのは27点で、残る17点については新たに表現を練り直すこととなった。読み札一字目の音の重複や欠落を調整することに加え、カルタを楽しんでいただく対象を小学生から幅広い世代に広げたことから、「皇居からスタートするよ郵便番号」「古書店のにおいは文化伝えてる」といった口語的な表現も改めることとした。

読み札の情報を損なわないよう配慮しながら一字目の音を調整する中で、札によっては何度も表現を変更する場合もあった。

例えば、千代田区の「区の木」として制定されている松についての読み札は、「真冬でも緑あざやか皇居の松」から「景観を誇る皇居の松みどり」、さらに「松みどり いつもあざやか皇居前」のように、他の札との音の調整を図りながら表現を決定する必要が生じ、表現が二転三転した。使用する語句が難解になり過ぎないように、小学生用の国語辞典を利用しながら候補となる語句を列挙し、それらを組み替えるなど、この調整は最も苦慮したところである。

その他にも、「出版物すべてが集まる国会図書館」から「網羅する本の数々国会図書館」となり、最終的には「類がない 本の集まる国会図書館」となった例や、「五輪咲き春のおとずれ標本木」から「待ち遠しい標本木に咲く五輪」、さらに「今朝五輪 標本木に咲いて春」となった例などが挙げられる。

表1 「千代田区ふるさと検定」検定問題と「ここで一句」の例

	内容	検定問題（文中のルビ、選択肢、答え、解説は略）	ここで一句
1	区の人口	千代田区の人口は、およそ何人でしょう。	6万の人口 昼は85万
2	「千代田」の由来	千代田区は、昭和22（1947）年に麹町区と神田区が合併して誕生しました。この「千代田」という名前は、どのようなことから決まったものでしょう。	区の歴史見守り続ける千代田城
3	区の花 桜	千代田区で制定されている「区の花」は、何でしょう。	満開のさくらにそまる千鳥ヶ淵
4	姉妹都市	千代田区と姉妹都市になっているところは、二つあります。ひとつは秋田県五城目町。あとひとつはどこでしょう。	千代田区と五城目・孺恋手をつなぐ
5	区の面積	千代田区は東京都23区のはば中心にあります。千代田区の面積は11.66㎢ありますが、これは東京都23区のうち何番目の大きさでしょうか。	山椒と千代田は小粒でぴりりとからい
6	区の木 松	千代田区で制定されている「区の木」は、何でしょう。	真冬でも緑あざやか皇居の松
7	千代田区歌	次のうち、「千代田区歌」の歌詞に入っていない言葉はどれでしょう。	千代田区歌「ここを都の都ぞと」
8	ちよくる	千代田区では、通勤や通学、観光のために、自転車を出しています。赤い色が目印になっているこの自転車の、ニックネームは何というでしょう。	「ちよくる」に乗って観光・お買い物
9	区の鳥 白鳥	千代田区で制定されている「区の鳥」は、何でしょう。	1羽2羽白鳥数えるお堀ばた
10	皇居の郵便番号	みなさんの家の住所に郵便番号があるように、皇居にも郵便番号があります。では、皇居の郵便番号は、どのような番号でしょう。	皇居からスタートするよ郵便番号
11	千代田区との隣接区	千代田区と隣合う区は全部で五つあります。港区、新宿区、台東区、中央区、あと一つは何区でしょう。	千代田区のおとなりさんは五つの区
12	竹橋	東京メトロの駅名にもなっている「竹橋」。では、なぜ「竹橋」という名前がついたのでしょうか。	竹橋の由来はなんと竹の橋
13	東京国際フォーラム	壁面のガラスが約2600枚も使われているこの建物は、いったい何というでしょう。	ガラスごし空も見えるよ国際フォーラム
14	最高裁判所	最高裁判所は、法律や政令が憲法に違反しているかどうかについて最終的に判断を下すところです。 毎年10月1日は「法の日」となっており、最高裁判所では「法の日」週間の記念行事として、法廷見学会を開催しています。このイベントで実際に体験できるのはどれでしょう。	「法の日」にあなたもなれる裁判官
15	聖橋	次の写真は、ある橋の上でとったものです。駅やとくちょうのある建物もうつっていますね。この写真は、どの橋の上でとったものでしょう。	大震災 復興のシンボル聖橋
16	男坂・女坂	千代田区にある二つの坂には、対になる言葉の名前がついています。それぞれ何という名前でしょう。	息きらし急な階段男坂
17	和田倉噴水公園	千代田区には、歴史的に有名な公園がいくつもあります。では、この写真の公園は、何という公園でしょう。	水と緑 光る和田倉噴水公園
18	大使館	千代田区は、さまざまな国々との交流を行うために、多くの大使館があります。では、千代田区にはない大使館はどれでしょう。	世界から千代田に集まる大使館
19	昭和館	昭和時代の人々の生活の様子を今に伝える昭和館。ここでは、昭和時代のいろいろな体験をすることもできます。では、昭和館で体験できないのはどれでしょう。	昔のくらしタイムスリップ昭和館

この過程は、単に一字目の音を調整するにとどまらず、いかに情報を印象的に伝える語句を選択するかが問われる、カルタ制作における不可欠な要素の一つであると考えられる。

検定問題中の「ここで一句」と、最終的にカルタの読み札として再構成した表現を（表2）に示す。

なお、このカルタの読み札構成によって17点の「ここで一句」が変更となったため、「千代田区ふるさと検定」Web版も併せて改訂することとした。

② ジャンルや小学校区を勘案して読み札の内容を選択する

「千代田区ふるさと検定」Web版では、コースの選択ができるよう（図2）に示した2種類の画面が提示される。検定問題72問がそれぞれのコースに配分されているが、2つ以上のコースで同じ問題が提示される場合もある。

カルタの読み札として取り上げる内容や地域を検討するにあたっては、極端な片寄りが起こらないようこの分類を活用した。

ジャンル別の選択画面では、歴史、文化、自然、生活等のほか、「皇居」「川・橋・坂」といったコースも設定している。これらのコースは千代田区ならではの特色を表すものであり、郷土カルタを制作する際にも不可欠な視点となる。地域の特色を積極的に取り入れることにより、郷土カルタとしての個性を際立たせることができるためである。

読み札（決定稿）と内容、小学校学区の対応を示すのが（表3）である。



図2 Web版「千代田区ふるさと検定」コースの選択画面（左：ジャンル別、右：学区別）

③ 絵札を構成する

絵札は、千代田区交流活動「ちよとも」の小野晶子氏のご厚意により、illustratorでの作成をお願いいただいた。

すでに発信している「千代田区ふるさと検定」では、ゼミ生が撮影した画像を使用しているため、カルタの絵札にこの画像を流用することも考えられた。しかし、画像では不要な情報まで入り込んでしまうことから、イラストによる印象的な絵札で構成することとし、読み札の情報がより鮮明に伝わることを意図した。

表2 「千代田区ふるさと検定 ここで一句」と再構成した読み札

(※ 空欄は「ここで一句」を変更せず読み札としたことを示す)

	内 容	「ここで一句」(2018年度末)	再構成した読み札 (2019年9月)
1	区の人口	6万の人口 昼は85万	※
2	区の花 桜	満開のさくらにそまる千鳥ヶ淵	のどかな日 さくら満開 千鳥ヶ淵
3	区的面積	山椒と千代田は小粒でぴりりとからい	
4	区の木 松	真冬でも緑あざやか皇居の松	松みどり いつもあざやか皇居前
5	ちよくる	「ちよくる」に乗って観光・お買い物	
6	区の鳥 白鳥	一羽二羽白鳥数えるお濠ばた	
7	皇居の郵便番号	皇居からスタートするよ郵便番号	郵便番号スタートするのは皇居から
8	東京国際フォーラム	ガラスごし空も見えるよ国際フォーラム	壁面のガラス輝く国際フォーラム
9	最高裁判所	「法の日」にあなたもなれる裁判官	
10	和田倉噴水公園	水と緑 光る和田倉噴水公園	
11	大使館	世界から千代田に集まる大使館	
12	昭和館	昔のくらしタイムスリップ昭和館	
13	国立劇場 黒子	伝統を次代につなぐ国立劇場	
14	日比谷公園	広いなあ日比谷公園 風みどり	広々と日比谷公園わたる風
15	和泉橋防災船着場	にぎわいを水面にうつす神田川	
16	佐久間公園	ラジオ体操 ここで始まる佐久間公園	
17	国会議事堂	議事堂は白亜の殿堂みかげ石	白亜の殿堂 議事堂つくるみかげ石
18	神田神社神田祭	ワッショイワッショイ江戸っ子たちは祭り好き	
19	夏日漱石	漱石の足あと残すお茶の水	
20	靖国神社 標本木	五輪咲き春のおとずれ標本木	今朝五輪 標本木に咲いて春
21	東京駅	旅人の始発・終着 東京駅	
22	御厩谷坂	おんまやだに馬たち行きかうこの坂で	
23	学士会館	学士会館 日本の野球はこの地から	
24	平河天満宮	牛をなで願いかなえる平河天満宮	
25	神田古書店街	古書店のにおいは文化伝えてる	古書店が伝える文化神保町
26	東京宝塚劇場	演劇のスター生まれる宝塚	
27	日本武道館	富士山を屋根にいただく武道館	
28	ニコライ堂	ドーム屋根ひびく鐘の音ニコライ堂	
29	国立国会図書館	出版物すべてが集まる国会図書館	類がない 本の集まる国会図書館
30	神田小川町雪だるまフェア	嬌恋の雪で神田に雪だるま	
31	風ぐるま	区民の足 助けるピンクの「風ぐるま」	区民の足バリアフリーの「風ぐるま」
32	皇居ラン	四季の風受けて5キロの皇居ラン	
33	神田紺屋町の由来	流行はここから発信 紺屋町	
34	山王祭	日枝神社からビルの街ゆく大行列	練り歩く山王祭の大行列
35	日本カメラ博物館	レンズごしに歴史を見てきたこのカメラ	
36	靖国神社	ちょうちんが夜空に並ぶみたままつり	夏の夜に並ぶちょうちん みたままつり
37	J Rの駅	便利だよどこにも行ける交通網	最寄り駅すぐに見つかる交通網
38	紀尾井町の由来	紀伊・尾張・井伊の御三家 紀尾井町	
39	番町文人通り	旧居跡ずらりと並ぶ文人通り	名作が生まれた番町文人通り
40	四谷見附橋	街灯がおしゃれな四谷見附橋	宵待ちの街灯 四谷見附橋
41	諏訪坂 (だるま坂)	諏訪坂は親しみこめて「だるま坂」	
42	皇居東御苑の野鳥	都心でも野鳥観察 東御苑	野鳥らのさえずり聞こえる東御苑
43	金山神社	職人が腕を競った金物通り	抜きん出る職人の技 金物通り
44	秋葉原駅	秋葉原 電気とアニメの中心地	

表3 カルタ読み札とジャンル、小学校学区の対応

	カルタ読み札	ジャンル（検定問題の内容に準拠）									千代田区立小学校 学区の内容							
		区民の基本	歴史	人物	祭り・イベント	建物	自然	皇居	川・橋・坂	暮らし	和泉小	お茶の水小	九段小	麹町小	昌平小	千代田小	番町小	富士見小
あ	秋葉原 電気とアニメの中心地					○					○				○			
い	一羽二羽白鳥数えるお濠ばた	○					○	○										
う	牛をなで願いかなえる平河天満宮					○								○				
え	演劇のスター生まれる宝塚					○										○		
お	おんまやだに馬たち行きかうこの坂で								○				○					
か	学士会館 日本の野球はこの地から		○								○							
き	紀伊・尾張・井伊の御三家 紀尾井町		○														○	
く	区民の足バリアフリーの「風ぐるま」	○								○								
け	今朝五輪 標本木に咲いて春						○			○			○					○
こ	古書店が伝える文化神保町				○						○							
さ	山椒と千代田は小粒でぴりりとからい	○																
し	四季の風受けて5キロの皇居ラン							○		○								
す	諏訪坂は親しみこめて「だるま坂」								○					○			○	
せ	世界から千代田に集まる大使館					○							○				○	
そ	漱石の足あと残すお茶の水			○							○							
た	旅人の始発・終着 東京駅					○										○		
ち	「ちよくる」に乗って観光・お買い物	○								○								
つ	嬌恋の雪で神田に雪だるま				○						○					○		
て	伝統を次代につなぐ国立劇場					○								○				
と	ドーム屋根ひびく鐘の音ニコライ堂			○							○				○			
な	夏の夜に並ぶちょうちん みたままつり				○								○					
に	にぎわいを水面にうつす神田川								○		○							
ぬ	抜きん出る職人の技 金物通り				○	○					○					○		
ね	練り歩く山王祭の大行列				○									○				
の	のどかな日 さくら満開 千鳥ヶ淵	○					○						○	○				
は	白亜の殿堂 議事堂つくるみかげ石					○								○				
ひ	広々と日比谷公園わたる風				○		○									○		
ふ	富士山を屋根にいただく武道館					○												○
へ	壁面のガラス輝く国際フォーラム					○										○		
ほ	「法の日」にあなたもなれる裁判官				○									○				
ま	松みどり いつもあざやか皇居前	○					○	○										
み	水と緑 光る和田倉噴水公園		○				○							○		○		
む	昔のくらしタイムスリップ昭和館				○					○								○
め	名作が生まれた番町文人通り		○	○													○	
も	最寄り駅すぐに見つかる交通網									○								
や	野鳥らのさえずり聞こえる東御苑						○	○										
ゆ	郵便番号スタートするのは皇居から							○		○								
よ	宵待ちの街灯 四谷見附橋								○								○	
ら	ラジオ体操 ここで始まる佐久間公園		○				○				○							
り	流行はここから発信 紺屋町		○								○					○		
る	類がない 本の集まる国会図書館					○								○				
れ	レンズごしに歴史を見てきたこのカメラ		○											○				
ろ	6万の人口 昼は85万	○																
わ	ワッショイワッショイ江戸っ子たちは祭り好き				○						○				○			

小野氏への絵札構成の依頼に当たっては、絵札のイメージをゼミ内で明確にし、それを小野氏に伝えるという方法をとった。以下、絵札の構成についてどのようにイメージを共有したか、例を示す。

（例１）読み札「す」：諏訪坂は親しみこめて「だるま坂」

特徴的な建造物などであればイラストにも起こしやすいが、「坂」を絵札とするのは困難である。ここでは、読み札の内容が生かされるよう、諏訪坂の画像を参考に、だるまのイラストを加えるというリクエストをした。読み札と呼応し、一目で「だるま坂」とわかる絵札となっている。



図３ 諏訪坂の画像及びこれをもとに作成した絵札

（例２）読み札「け」：今朝五輪 標本木に咲いて春

靖国神社の標本木も、画像では周囲の景色に紛れて非常に分かりにくい。イラスト構成に当たっては、不要な情報は捨象し、開花を強調していただくようリクエストした。例１と同様、画像と比べて格段に印象的になり、読み札の内容に即した絵札となっている。



図４ 靖国神社の標本木の画像及びこれをもとに作成した絵札

④ カルタの解説書、外箱を構成する

カルタの解説書の片面には、「千代田区ふるさとカルタ」発行までの経緯、カルタ読み札の一覧を掲載した。もう一方の面には、「千代田区ふるさと検定」Web画面とカルタの外箱デザインを並べて示し、両者の関連を強調してともに親しんでいただけることを意図した。



図5 「千代田区ふるさとカルタ」



図6 「千代田区ふるさとカルタ」解説書（片面）

4. カルタを活用した地域・大学間の交流活動

(1) 学童クラブにおける「千代田区ふるさとカルタ大会」

2020年2月19日、ポピンズアフタースクール一番町において「千代田区ふるさとカルタ」のカルタ大会を実施した。新型コロナウイルスの感染に対する不安が高まり始めた時期であったため、参加者数は当初より少なくなったが、それでも約30名の小学生（第1学年から第4学年）の参加があった。当日は、密接とならないよう参加児童を5テーブルに分け、テーブル毎に絵札を配して、ゼミ生1名がカルタを読み上げることにした。

カルタが読み上げられると、児童は勢いよく絵札を取り、手にした絵札を興味深そうに鑑賞している姿が多く見受けられた。また、「日比谷公園だ。行ったことがある。」「夏目漱石って知っているよ。」「四谷見附橋はうちの近くの橋だよ。」などと自らが持つ情報を口々に話していた。これは、カルタ遊びにより、地域にまつわる知識や経験を交流する機会が誘発されたことを示す姿であり、こうした姿が郷土意識の醸成に繋がっていくと考えられる。そのため、このカルタ大会においても、カルタを次から次へと読み上げ能率的に競技を進めるのではなく、多少の間を取り、個々に生じた興味・関心による言動を尊重するようにした。

同アフタースクール施設長である野上紋氏からは、小学校で学習したり見学に行ったりしている場所や施設がカルタに取り上げられているため、児童にとって親しみやすい内容であり、定期的にこのカルタ遊びを実施していきたいとの評価をいただいた。

このカルタ大会に参加したゼミ生は、自らが作成してきたカルタに児童が嬉々として取り組んでいる姿を目の当たりにし、大きな成就感、達成感を味わっていた。



図7 学童クラブにおけるカルタ大会の様子

このカルタ大会の様子は、毎日新聞「大学倶楽部」(2020年3月10日付)に掲載された。

(2) 地域交流活動「ちよとも」におけるカルタ大会

「ちよとも」は、10代からご高齢の方まで、国籍や職業等を問わずに参加することのできる地域交流活動であり、ここでのカルタ大会についても実施計画を立てていた。が、新型コロナウイルスの感染拡大が進行し、中止を余儀なくされることとなった。

5. 考察

(1) カルタの制作過程

カルタを制作するに当たり、検定問題の構成において内容と地域(小学校学区)に片寄りが無いよう配慮していたことと、読み札の素案として72点の「ここで一句」を持ち合わせていたことの2点が実に有効に機能した。カルタ制作の第一段階として広く片寄りのない情報収集とそれに即した表現の吟味が不可欠であり、この段階が十分でなければ恣意性に左右されたカルタ制作に終始したと考える。

現在発行されている郷土カルタの制作者の多くは、その土地に在住し、深い郷土愛を持っている方々であると考えられる。千代田区の大学に通学・通勤している関わりしか持たない私たちが千代田区のカルタを制作することのほうが、極めて稀であることは間違いない。地域を熟知している方々は、前の2点のうち、少なくともカルタに取り上げる内容や地域についての選定は経験に基づいて比較的容易に行うことができると考える。これまで2000にも及ぶ郷土カルタが存在しながら、その制作過程が研究対象となりにくかったのは、地域の関係者が経験的に持つ情報に基づいて制作していたためではないかと考える。

しかし、後述するように、情報収集・情報発信の活動として小学校における郷土カルタ作りも盛んになっていることから、その制作の観点を明確にすることは今後必要となってくるであろう。観点が曖昧なまま児童をカルタ作りに向かわせることは、安易な活動提供となってしまうからである。児童個々が思いついたものをカルタとするのではなく、何をカルタに表すか互いの持つ情報を話し

合ったり、調べて情報を補ったりして、その情報をどのような表現（読み札、絵札）とするかを検討し実際の制作に向かうことこそ、学習活動としての価値をもつ郷土カルタ作りとなるであろう。また、そうすることによってはじめて児童の郷土意識も高まっていくことが期待できる。このように、郷土カルタの制作過程の観点を明らかにすることは、自分たちでも作成してみようとする児童の学習の充実にとっても必要となると考える。

（2）「千代田区ふるさとカルタ」の活用 ―学習モデルとしての活用―

「千代田区ふるさとカルタ」は、地域・大学間の交流推進のためのコミュニケーションツールとして活用するほかに、小学校の学習指導における活用についても効果を期待することができる。

学習活動としての「カルタ作り」は、小学校国語科、社会科、総合的な学習の時間等にしばしば行われている。一例を示すと、千代田区の小学校第3学年児童が社会科副読本としている『わたしたちの千代田区』には、「ふるさとれきしカルタをつくろう」という学習活動が示されている。「区内にのこる古いものをれきしカルタにまとめる」として、以下に示すカルタ作品6点が参考例として提示されている。また、指導者、児童の吹き出しの形で、カルタの作成や活用についてのコメントが示されている。（／は著者。副読本ではここで改行される。）

- ・くだんざか／とうみょう台の／ひがともる
- ・ちから石／むかしの人が／力くらべ
- ・しん幸祭／江戸のむかしの／時代絵まき
- ・マッカーサー／新しい世の中つくれた／明治生命館
- ・こうじ町ばやし／みんなの力で／よみがえる
- ・ディンドンドン／ニコライどうの／かねがなる

（指導者①）言葉のふだに、名前やいわれを入れます。調子のよいリズムになるようにするのも、大事なポイントです。

（児童）ぼくたちの作った、古いものイラストマップの上に絵カルタをおいて、カルタとり大会をすると、場所もおぼえられて、きっと楽しいぞ。

（指導者②）できあがった作品を東京都のちがう地いきの友だちと交かんするのも、楽しいですね。²⁾

実際の教室では、指導者はカルタ作りに際してより詳細な指導を行うことが想定されるが、児童がこれから作ろうとするモデルとして、「千代田区ふるさとカルタ」を活用することにより、学習のゴールが明示され、目的的に学習活動に取り組むことが期待できる。

(3) ゼミ生の向上的変容

郷土カルタの制作、イベントの企画運営等にはゼミ生が主体となって取り組んできているが、こうした活動は学生にどのような変容をもたらしているだろうか。

(表4)は、2019年度末にゼミ生(3・4年生)が千代田区に関するゼミ活動について自己評価を行った結果である。協働性、社会性、問題解決力等を観点とする11項目について、4段階(0:この活動による向上的変容はない、1:多少は向上的変容があった、2:向上的変容があった、3:大いに向上的変容があった)で自己の変容を評価することとした。自分の本来の特性を数値化するのではなく、この活動によってどれだけの変容があったと感じるかを回答するものである。

表4 千代田区に関するゼミ活動についての自己評価(2019年度末)

	自己評価の項目	4年生 n=9	3年生 n=9	ゼミ全体 n=18
1	人と協力しながらものごとを進める	2.4	1.3	1.9
2	自分の感情を上手にコントロールする	1.4	1.0	1.2
3	異なる意見や立場をふまえて、考えをまとめる	2.1	1.3	1.7
4	自ら先頭に立って行動し、グループをまとめる	1.0	1.1	1.1
5	社会や文化の多様性を理解し、尊重する	2.2	1.9	2.1
6	幅広い世代と気軽にコミュニケーションを図る	2.7	2.0	2.3
7	ものごとを批判的・多面的に考える	1.1	0.9	1.0
8	現状を分析し、問題点や課題を発見する	1.4	0.9	1.2
9	自分で目標を設定し、計画的に行動する	1.6	0.9	1.2
10	既存の枠にとらわれず、新しい発想やアイデアを出す	1.7	1.2	1.4
11	筋道を立てて論理的に問題を解決する	1.1	0.7	0.9

2年間にわたって活動に取り組んできた4年生と日が浅い3年生とでは、意識に差が見られる項目が多い。特に、幅広い世代との交流、他者との協力、多様性の理解等について、4年生は多くの活動経験を通して向上したと自己評価していることがわかる。これは、筆者の認識とも一致することであり、地域住民との交流活動がゼミ生にとって貴重な経験となっているのは言うまでもないことであろう。

一方で、リーダーシップ、批判的・多面的な思考等については、学年を問わず低く評価しており、これらを敬遠してしまいがちな意識にゼミ活動を通してどのように働きかけていくか、今後検討していく必要がある。

6. 今後の課題

カルタの完成と時期を同じくして新型コロナウイルスの感染拡大が進行したため、当初計画していた地域のイベントは学童クラブにおけるカルタ大会のみとなったことは残念である。しかし、今後も様々な世代の方々を対象とした交流活動を、状況に即した形で企画運営していきたいと考えている。

これまでの継続的な実践研究をふまえ、次年度は、検定問題として蓄積してきた情報を、イラストマップアプリを利用したGPSクイズラリーとして再構成していく。検定問題で取り上げた場所に足を運び、街歩きを楽しむことのできる機会を「体験型の検定」として提供していく計画である。

上記の実践的研究を通して、地域・大学間の交流推進を図るとともに、学生の価値ある学びの機会としていきたい。

脚注

- 1) 原口美貴子・山口幸男「郷土かるた、上毛かるたの魅力と意義―郷土かるた王国『群馬』からの発信―」群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編 第59巻pp.9-10、2010
- 2) 千代田区教育委員会「わたしたちの千代田区」p.85、2014

参考文献

- 1) 原口美貴子「白鷗大生と取り組んだ『栃木かるた』づくりの実践報告―小学校社会科 身近な地域（郷土）に関する学習の指導力育成をめざして―」白鷗大学教育学部論集pp.289-315、2017
- 2) 野知菜穂美・倉持康平・志村秀明「小学校・大学・住民の連携による『まちのカルタづくりワークショップ』の開発」日本建築学会技術報告集第20巻 第44号、pp.317-322、2014
- 3) 梅津顕一郎「宮崎における21世紀型地域アイデンティティの構築―ひむかかるたの取り組みから見えてきたもの―」宮崎公立大学人文学部紀要第27巻 第1号、pp.27-44、2020
- 4) 金沢市教育委員会「金沢ふるさと学習 指導資料」2015
- 5) 静岡県・静岡県教育委員会「景観まちづくり学習の手引き」2019

謝辞

本研究に当たり、共同研究者として「千代田区ふるさとカルタ」読み札の表現等にご助言くださいました文芸学部深津謙一郎教授に心より感謝申し上げます。また、絵札制作を快く引き受けてくださった千代田区地域交流活動「ちよとも」の小野晶子氏に心より感謝申し上げます。